

皆様のかかりつけ医として
大切な情報をお届けします

新聞PDFはこちらへ▶

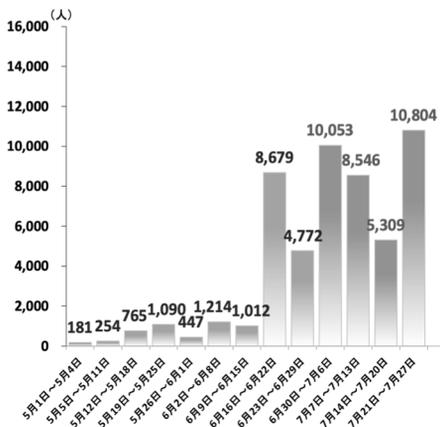


いわい中央クリニック新聞

- ◇ 受診の際は毎回マイナンバーカード受付をお願いします
- ◇ 新聞の持ち帰りをご希望の方はお気軽に受付へお申し出ください

2025年の熱中症 過去最多のハイペース！

6月の熱中症による全国の救急搬送者数は過去最多の17,229人に達しました。7月もその勢いは衰えず、7月21日から27日の1週間だけで10,804人が搬送されています。救急搬送された方のうち約6割が65歳以上の方です。高齢になると暑さやのどの渇きを感じにくくなるため、知らず知らずのうちに熱中症が進行してしまう危険があります。



重症度	症状	対処法	
I度 中等症	めまい、立ちくらみ だるさ、筋肉がつる 汗が止まらない	水分と塩分の補給 (スポーツドリンクが最適) 涼しい場所での休憩、衣服は緩める 体を冷やす (首の後ろ、脇の下、足付け根)	自宅療養 レベル
II度 重症	体に力が入らない 吐き気、嘔吐、頭痛 集中力や判断力低下	涼しい場所で足を高くして休む 体を冷やす (首の後ろ、脇の下、足付け根) 点滴治療が必要	クリニック レベル 点滴が必要
III度 死が近い	けいれん、意識ない 反応がおかしい 手足の運動障害	ためらわず救急車(119番)を呼び 体を冷やす (首の後ろ、脇の下、足付け根) 意識がない時は水分を与えない	救急車で すぐ 大病院へ

今夏は特にけがに注意を

破傷風ワクチンの出荷が停止されています。破傷風の発症を防ぐためには、とにかくけがをしないことが最も重要です。特に、農作業中の鎌や枯れ枝によるけが、解体作業中の古い釘や錆びた釘を踏むけが、海の岩場でのけが、交通事故、動物に噛まれる、熱中症などで転倒して負うけがなど、土などで汚れる可能性のある深い傷には厳重な注意が必要です。ワクチン再開の見込みは不明なため、今年の夏はいつも以上にけがに気を付けてお過ごしください。



インフルエンザワクチン

インフルエンザワクチン接種は10月にしましょう

10月からインフルエンザワクチン予防接種開始いたします。接種してから、効果が現れてくるのには約2週間程度かかりますので、流行期の2週間前には遅くとも接種を終わらせておく必要があります。ワクチンの効果は約5ヶ月持続すると考えられており、10月に接種すると翌年2月までは効果が保たれると考えられます。流行期に効果を持たせることが重要です。



看護師長からのあいさつ

前立腺がん個別検診の検査を受けましょう

前立腺がんは日本男性において最も多いがんです。加齢に伴い急激に発症率が高まります。

50歳以上の方はPSA検査を受けることをお勧めします。前立腺癌は早期の場合は自覚症状がほとんどないですが、進行すると排尿時の症状や血尿、骨転移による痛みやしびれが現れることがあります。PSA高値の場合は精密検査が必要です。前立腺がんの早期治療を行った人の5年生存率は90%を超えており、早期発見・早期治療がとて重要となります。



院長からのあいさつ

各地で厳しい暑さが続いております。熱中症は、室内や夜間でも起こり得ます。「自分は大丈夫」という油断は禁物です。こまめな水分補給と適切な室温管理を徹底し、くれぐれもご自愛ください。夏休みやお盆を迎え、大阪・関西万博など遠方へお出かけになる方も多いかと存じます。人の移動が活発になる時期は、新型コロナ等含め感染症が広まりやすくなります。手洗いやうがいなど基本的な感染対策を心がけましょう。

当クリニックは、皆様の夏の健康をサポートしてまいります。少しでも体調に不安を感じた際はどうぞお気軽にご相談ください。